

特集 NAB Show 2019にあった“衝撃”

“放送技術”はどこに向かうのか

NAB Show 2019は「every Story starts here」(すべてのストーリーはここから始まる)をテーマに掲げ、4月7日～11日、ラスベガス・コンベンション・センター(LVCC)で行われた。放送の将来に向けてどんなストーリーが話されたのか。前号に続いてワイズ・メディアの塚本幹夫氏、ニューヨーク在住ジャーナリストの津山恵子氏、本誌連載筆者のテッド若山氏のレポートと、本誌NABツアーで訪問したローカル局や企業の情報も交えた編集部レポートである。筆者は「これからの放送技術は何か」を強く感じている。挑戦的に読んで意見をバンバン寄らせてもらいたい。

yoshii@newwww-media.co.jp (レポート・写真:吉井 勇・本誌編集部)



放送業界は画面を見つめる若くて熱い視線を求めている

キーノートのテーマに

「ATSC 3.0」がない

テッド若山氏がつぶやいた。「ATSC 3.0がキーノートの講演テーマに入っていない」。

オープニングセッションで、「ATSC3.0は昨年からの試験放送を開始し、今年は地域拡大を支援している」とNAB会長のゴードン・スミス氏は述べ、「ATSC 3.0の特徴である4K放送を生かすため、ネットワークやローカル局、メディア、クリエイターの皆さんは4Kコンテンツをもっと制作してほしい」と訴えていたのに、キー



オープニングセッションで「ATSC 3.0の普及」を訴えるNAB会長のゴードン・スミス氏

ノートにないとは意外だった。

また、米連邦通信委員会(FCC)委員長のアジット・パイ氏は基調講演で、「直接受信世帯はこの4年で400万増えて1,600万となり、全世帯の15%となった。チャンネルの再移転(リパッキング)は200局が終了しており、議会承認された費用補償10億ドルに加え、27.5億ドルの予算を決定。コールセンターや視聴者対応などに投入していく」と述べ、ケーブルテレビ経由の地上テレビ視聴が多い中、地上波の直接受信をアピールした。ここにATSC 3.0が絡む。

では、アメリカの地上放送局であるネットワークとローカル局は、ATSC 3.0にどう向き合おうとしているのか。ネットワークはABC、NBC、CBS、FOXで、直営と加盟の局が210の地域放送市場に展開する。ローカル局はどうか。フル出力のテレビ局は1,761局で、388局は非営利(PBSなど)。残る1,373局がローカル放送局で、4大ネットワークに属さない局はおよそ570局程度である。そのうちローカル放送

局を束ねるテレビ資本のトップ3はSinclair、Nexstar、Tribuneで、この3社で約500局を所有している。

4大ネットワークのATSC 3.0対応はどうか。テッド氏は「FOXは、Disneyの買収に対してニュースとスポーツの部門を残し、ライブ放送にフォーカスしたことから、ATSC3.0を支持している。DisneyはDisney+が成功すれば、傘下のABCは手抜きになる可能性もある。他のNBCやCBS



Centralホールの一等地に設けたATSC 3.0コーナーは、人がいつもまばらだった